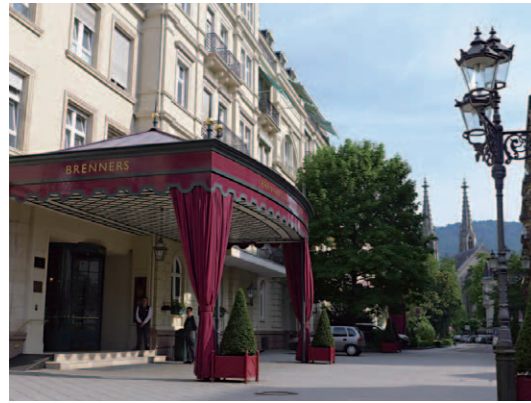


# ブレナーズパーク ホテル&スパ Brenners Park-Hotel & Spa



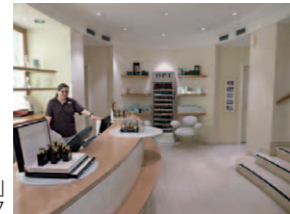
美しい真紅のキャノピーが張り出した[Brenners Park-Hotel & Spa]の正面エントランス。後方に街のシンボルである教会「Stadt-Kirche」の双頭の尖塔が見える



上流階級の社交場として発展した往時を偲ぶ気品に満ちたエントランスホール



“温室・冬の庭園”などの意味を持ち、穏やかな陽光が降り注ぐオールデイダイニング「Wintergarten」



「Spa & Medical Spa」のレセプションデスク



筆者 小原康裕

ホテルジャーナリスト。  
慶応義塾大学法学部法律学科卒。74年 Munich Re入社。85年築地原健株代表取締役。2001年投資顧問会社原健設立、代表取締役CEO。JHRCA、日本ホテルレストランコンサルタント協会理事。  
※現在、著者のホームページで「世界のリーディングホテル」を連載中。多くの美しい写真と興味深いコメントで、世界中のホテルとそれら関連都市を紹介。  
[www.jhrca.com/worldhotel](http://www.jhrca.com/worldhotel)

世界にはまだまだ日本人が訪れていないホテルがある。このコーナーではホテルエが知っておくべき「世界のリーディングホテル」を紹介する。これまで多くのホテル紹介本が出版されてきたが、そのほとんどが現地のホテルと事前に取材の連絡を取り合い、プロのカメラマンや通訳、そのほか大勢を連れ立っての大名取材であり、宿泊は省略といったことも多々であった。本連載では、著者自身が長年にわたる個人旅行中に自分の目で感じ取り、コメントを書き込み、自分のカメラで思いのままを撮ってきた写真を掲載する。

※本連載は毎月2・4週号掲載



ドイツで最も美しいと言われる公園「Lichtentaler Allee」から俯瞰した「Brenners Park-Hotel & Spa」の全景。森の中をせせらぎが流れる小径に沿って大邸宅などが点在するヨーロッパでも別格の優雅な散歩道だ



ゆったりとした時が流れる「Baden-Baden Spa」のスイミングプール



スイミングプールから外に出ると、森と芝生の美しい庭園が広がる



ミシュラン1ツ星レストラン「Brenners Park-Restaurant」の華麗な店内



朝食だけのために用意された「Salon Lichtental」のガーデン席



ホテルの中心的役割を担うゴージャスなラウンジ「Kaminhalle」



ライブラリー感覚の優雅な大人の空間「Cigar Lounge」



ホテルのトップフロアに位置する「Duplex Suite」のリビングルーム。3方向に開口部が有るコーナースイートで、プライベートテラスからバーデン・バーデンの美しいパノラマの景色を堪能できる



壁紙からカーテン、ベッドに至るまで可愛い花柄の模様で統一したベッドルーム



優雅な曲線を描く階段を上ってベッドルームとバスルームに向かう

“バーデン”「Baden」とはドイツ語で入浴とか温泉という意味を持ち、ちょうどロンドンの西にある温泉保養地“バース”「Bath」と同意義の関係である。バーデン・バーデンはその名の通り温泉リゾートとして知られ、ローマ帝国の時代から続く歴史を持つ。温泉施設が整った18-19世紀になると、世界中から王侯貴族や文化人がこぞって夏の避暑に訪れ、保養と上流階級の社交場として発展して来た。やがて“欧州の夏の首都”とも称賛され、ヨーロッパでも屈指の国際的温泉保養地としての地位を確立した。

バーデン・バーデンは有名な“黒い森”シュヴァルトツヴァルト「Schwarzwald」の北に位置する。温泉地と言っても日本でよく見られる歓楽街的イメージとはほど遠い文化都市で、オペラハウス、カジノ、劇場、美術館、国際会議場などを揃えた保養地である。もちろん主役は温泉であるが、すでに日本語となっている“テルメ”とか“クアハウス”の語源はドイツ語からの温泉用語だ。クアハウスの隣には“飲泉場”「Trinkhalle」があり、フリートリヒ源泉から湧出する温泉水を飲むことができる。その温泉地を代表するランドマークがブレナーズパークホテルである。ホテルはドイツで最も美しいと言われる公園「Lichtentaler Allee」に面した理想的な環境にある。森の中をせせらぎが流れる小径に沿って大邸宅、高級別荘が点在するヨーロッパでも別格の優雅な散歩道だ。

ブレナーズパークホテルの歴史は1872年、この地にあった“ステファニー温泉”「Stepfanienbad」を宮廷服飾人であるアントン・ブレナー「Anton Brenner」が買い取り、ホテルとして開業したことに始まる。現在のホテルは32のスイートを含め、ちょうど100室の豪華な意匠を凝らしたゲストルームを用意している。大型のキャノピーが付いたメインエントランスを入ると、左手にレセプションデスクを見て正面に「Kaminhalle」がある。ホテルの中心的役割を担うゴージャスなラウンジであり、その先にミシュラン1ツ星レストランの「Brenners Park-Restaurant」と“温室・冬の庭園”という意味の陽光が降り注ぐオールデイダイニング「Wintergarten」がある。さらに朝食だけのために用意された「Salon Lichtental」には専任のスタッフが立ち数多くのメニューを提供している。スパ「Baden-Baden Spa」はホテル成り立ちの核心部分でもあり、ローマ帝国の時代を彷彿させる貴族趣味的なスイミングプールなど諸施設の完成度には目を見張る。また、温泉療法の本場でもありメディカルの要素を加味した「Medical Spa」は注目である。

ブレナーズパークホテル&スパは世界でも有数の最高級スパホテルとして140年の歴史があり、2009年のNATO会議の際はオバマ大統領をはじめ25カ国の首脳が滞在している。現在はバリのプリストルを擁す高級ホテルグループ「Oetker Collection」の一員として、政財界、社交界から多くの顧客を持つ評価の高いホテルだ。今日もホテルは、深い森の静寂の中にゆったりと佇んでいる。